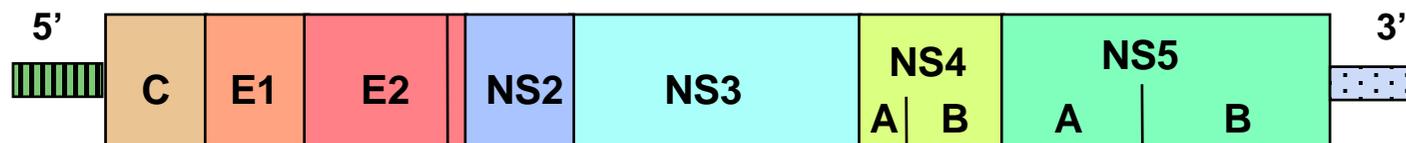


# 肝炎研究の現状と今後の展開

国立感染症研究所

宮村 達男



第2回 肝炎対策推進協議会 平成22年8月2日

**肝炎等克服緊急対策研究事業の主な採択課題  
(平成22年度実施分)**

# 肝炎等克服緊急対策研究事業の主な採択課題 (22年度実施分)

## ①肝炎治療の現状と治療薬開発の方向性に関するテーマ

- ウイルス性肝炎における最新の治療法の標準化を目指す研究(H22-24)
  - ・IFN少量長期投与のより高いエビデンスのための検討
- ウイルス性肝炎に対する応答性を規定する宿主因子も含めた情報のデータベース構築・治療応用に関する研究構築(H22-24)
  - ・肝炎ウイルス統合データベースの構築

## ②肝硬変治療の現状と治療薬開発の方向性に関するテーマ

- 骨髄および脂肪由来細胞を用いた次世代型肝臓再生・修復（抗線維化）療法の開発研究(H21-23)
  - ・骨髄細胞を用いた肝再生療法の基礎的解析、有効性の検討
- 肝発癌抑制を視野に入れた肝硬変の栄養療法のガイドライン作成を目指した総合的研究(H20-22)
  - ・肝硬変の栄養療法ガイドラインの作成

## ③肝がん治療の現状と治療薬開発の方向性に関連するテーマ

- ウイルス性肝炎からの発がん及び肝がん再発の抑制に関する研究(H22-24)
  - ・C型の病態別における抗ウイルス療法の発がん抑制効果の検討

## ④新しいウイルス性肝炎治療薬の開発に向けた基礎研究の方向性に関するテーマ

- 肝炎ウイルス感染複製増殖過程の解明と新規治療法開発に関する研究(H22-24)
  - ・HCV感染増殖に関与する宿主蛋白の解析、HCV培養系による低分子ライブラリーからの増殖阻害物質の探索
- 肝炎ウイルスによる肝疾患発症の宿主要因と発症予防に関する研究(H22-24)
  - ・HCV増殖と代謝異常の関連を分子レベルで解明し、新規治療法の開発

## ⑤肝炎等疫学研究に関連するテーマ

- 肝炎ウイルス感染状況・長期経過と予後調査及び治療導入対策に関する研究(H22-24)
  - ・肝炎ウイルス検査の追跡調査等による持続感染者総数の推計等の実態把握
- B型肝炎のジェノタイプA型感染の慢性化など本邦における実態とその予防に関する研究(H21-23)
  - ・HBV ジェノタイプAに関する我が国の実態把握を行い、ハイリスクグループの調査、予防対策を検討
- B型肝炎の母子感染および水平感染の把握とワクチン戦略の再構築に関する研究(H21-23)
  - ・小児のB型肝炎ウイルス感染の感染経路等の実態を把握し、効果的な予防策の開発

# 肝炎研究7カ年戦略

(平成20年6月とりまとめ)

## 肝炎等の研究成果

- ・**B型肝炎:**  
インターフェロン治療  
逆転写酵素阻害薬治療
- ・**C型肝炎:**  
インターフェロン治療  
ペグインターフェロンとリバビリン併用療法
- ・**肝硬変:**  
代償性肝硬変のインターフェロン治療
- ・**肝がん:**  
ラジオ波焼灼、抗がん剤、手術、  
等の治療法
- ・**基礎:**  
肝炎ウイルス感染細胞、キメラ  
マウスなど確立
- ・**疫学:**  
肝炎患者の推計の基、母子感染  
予防、等

## 新規重点課題

- ・**B型肝炎:**  
逆転写酵素阻害剤に対する耐性ウイルスの機序解明  
新規逆転写酵素阻害剤等の治療薬開発
- ・**C型肝炎:**  
次世代的なインターフェロン治療法開発による根治率の改善  
インターフェロン副作用の少ない治療法・治療薬開発
- ・**肝硬変:**  
肝臓の線維化機序の解明から治療法開発  
ヒトiPS細胞等の再生医療を利用した根治治療の開発
- ・**肝がん:**  
診断マーカーや最新の画像機器を用いた超早期発見  
技術の開発  
新規抗がん剤の開発、集学的治療等新規治療法の開発
- ・**基礎:**  
肝炎ウイルス感染後の病態進行過程の解明  
肝炎ウイルスの薬剤耐性変異にかかわる過程の解明  
肝炎ウイルスによる発がん機構の解明
- ・**疫学:**  
全国規模の肝炎感染者の実態解明  
検診・予防・医療体制等の評価

## 戦略目標

今後7年間で、

- ・**B型肝炎**  
の臨床的治癒率、  
約30%→40%
- ・**C型肝炎**  
(1b高ウイルス型)  
の根治率  
約50%→70%
- ・**非代償性肝硬変**  
(Child-Pugh C)  
における5年生存率  
約25%→50%(B型)、  
約25%→35%(C型)
- ・**進行肝がん**  
の5年生存率  
約25%→40%

を目指す。



戦略の評価と見直し

研究の進捗状況を3年後に評価  
見直した上で必要な措置を講ずる